

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2019年9月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 教授

氏 名 保川 清

助 成 の 種 類	令和元年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	バイコン 2019		
発 表 形 式	<input checked="" type="checkbox"/> 招 待 ・ <input type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発 表 題 目	RNA amplification		
開 催 場 所	ビヤニカレッジ (ジャイプル、インド)		
渡 航 期 間	2019年 9月 22日 ~ 2019年 9月 26日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	150,000円	
	使用した助成金額	150,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助 成 金 の 使 途 内 訳	航空券(伊丹・デリー往復)	87,990円
		航空券(デリー・ジャイプル往復)	12,606円
		国内移動費(羽田・成田往復、伊丹・京都往復)	8,900円
		宿泊料(ホテル3泊)	36,000円
ビザ取得費		2,400円	
	インドでの交通費	2,104円	
当財団の助成について	<small>(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 本助成のお陰で、研究室の運営費を気にすることなく、BICON2019に参加し、発表できました。BICON2019では、多くのインド人を始め、少数ではあるがインド以外のアジア人とも交流でき、非常に有意義でした。今回助成をいただきましたことに、謹んでお礼を申し上げます。</small>		

成果の概要／保川 清

BICON は、ビヤニカレッジ（ジャイプル）が主催者となり、同大学と交流をもつインドおよびアジアの大学の研究者が集まり、分野を超えて最先端の研究成果を討議する場であり、毎年秋にインドのビヤニカレッジで開催される。保川は昨年の BICON2018 に出席し、「次世代シーケンスによる逆転写酵素の正確性の決定」について講演した。これがきっかけとなり、現在、Manish Biyani（ビヤニカレッジ）と新規な「HIV-1 逆転写酵素阻害剤のスクリーニング」について共同研究を実施している。今回、ビヤニカレッジ BICON2019（本集会）に招待を受け参加した。

本集会は 2019 年 9 月 23 日～25 日までビヤニカレッジで開催された。発表者はインド人、日本人および若干のそれ以外のアジア人であった。23 日の開会式では、インドと日本の国歌がそれぞれ流れる中、両国の国旗が掲揚された。その後、主催者であるビヤニカレッジの代表者や来賓による挨拶、祝辞がなされた。

23 日のテーマは、エイズ制御、ポイントケア、環境保全であり、これに関連する講演が組まれた。エイズ制御のセッションでは、Bechan Sharma（アラハバッド大学教授）が HIV-1 の逆転写酵素の変異について講演した。私は RNA 増幅法および Recombinase Polymerase Amplification 法（RPA 法）による HIV-1 の検出について講演した。ポイントケアのセッションでは中島直樹（九州大学教授）が医療情報について講演を行った。Madhu Biyani（富山県立大学研究員）は、活性化ビタミン D3 を合成する P450 酵素の改変について講演した。横田文彦（九州大学講師）は、医師が患者にインターネットで診察するシステムについて講演した。Rafigul Isalam Maruf 九州大学准教授は、ミャンマーで行われた無医村での医療活動について講演した。Prashant Singh（ラジャスタン大学准教授）は、植物へのワクチン接種による耐性獲得について講演した。どの講演に対しても活発な質疑応答がなされ、インド人のサイエンスに対する前向きな姿勢が伺えた。

講演の後は、参加した学生によるポスターセッションが行われた。その中で選ばれた 10 題の演題について短時間の口頭発表がなされた。最後に、余興として、ビヤニカレッジの学生による踊りや日本語での漫才が披露され、参加者を楽しませた。

24 日のテーマは情報であった。主なところでは、野原康信（九州大学助教）が病院での勤務中の看護師の動きをデータベース化し、より効率的な勤務形態を提案するシステムについて講演した。吉高淳夫（北陸先端科学技術大学院大学准教授）は、等温ゲル電気泳動の画像パターンを解析し、変曲点を求めるシステムの開発について講演した。近年、インドは情報に特に力を入れており、多くのシステムが開発されていることが、本集会でも多くのインドの企業が参加しており、この分野の関心の高さが伺えた。

25 日はデリーの日本国大使館を訪問し、科学技術振興機構（JST）のプロジェクトである地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）を Manish Biyani と共同で申請することについて、インド大使館の栗原潔一等書記官および江原由樹 JICA インド事務所次長と面談した。大使館へは、Manish Biyani、Bechan Sharma、横田文彦らが同行した。SATREPS は一つの課題に対し、日本側から JST への応募と、インド側からインドの日本国大使館への応募がともに必要である。今回の大使館訪問で、インド側からの応募は、まず、インドの中央省庁あるいは地方省庁の一つから、DEA（インド財務省経済局、Department of Economic Affairs）に申請し、さらに DEA から日本国大使館に申請書が送られる流れになっていることを知った。今回得た情報は、将来の申請に大いに役立つものである。

このように、本集会に参加することにより、多くの外国・日本人研究者と交流でき、貴重な情報を入手できたので、非常に有意義なものであった。これらを今後の研究活動に活かしていきたい。